

# 橿研 通 Vol.4 信

あなたと遺跡の新しいつながり方を見つける情報紙

## 橿原考古学研究所 創立 80 周年 記念号

### 第 4 号 目 次

- |                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| ・創立 80 周年にあたって 奈良県立橿原考古学研究所 所長 菅 谷 文 則 | 1  |
| ・橿研創立期の研究所棟と研究員                        | 2  |
| ・橿研を生み育てた歴代の所長                         | 3  |
| ・橿研発掘 80 年の軌跡                          | 5  |
| ・明日への橿研の活動 - 考古学で人と地域を結ぶ -             | 9  |
| ・あたらしい研究と出会いを求めて                       | 11 |
| ・奈良の世界遺産と考古学 第 4 回 大峯奥駈道（最終回）          | 13 |
| ・催し案内                                  | 15 |

表紙写真：大和国史館（上：1970 年頃／橿原公苑考古博物館）・橿原考古学研究所（下）

読者の皆様へ：本紙では、Google map に関係つけた地図 QR コードを掲載しています。個人の責任でご利用ください。



# 創立八十周年にあたって

## 榎原考古学研究所 所長 菅谷 文則

榎原考古学研究所（以下、榎考研）は、平成三十年に創立八十周年を迎えます。

御高承のとおり、榎考研の原点は、国と奈良県が推進した皇紀二千六百年祭での榎原道場建設にあります。奈良県史蹟名勝天然記念物調査会が、十万平米におよぶ榎原遺跡の発掘調査を実施するにあたり、昭和十三年九月十三日に発掘調査事務所を設置したのが、榎考研のはじまりでした。そして昭和十五年に完成した榎原道場の大和国史蹟で榎原遺跡出土品等を展示し、研究成果を公開する学術研究機関としての社会的活動をはじめました。

第二次大戦後の昭和二十五年には、文化財保護法が施行され、翌年五月十一日付「奈良県規則」により、榎考研は奈良県の埋蔵文化財調査研究機関に位置付けられました。昭和五十五年十月には博物館新館開館、平成二年五月には研究所本館が竣工し、先端的な設備を備えていただきました。

その間、榎考研は「遺跡及び埋蔵文化財の保存及び活用に関する事項を調

査研究し、教育、学術及び文化の発展に資するため」に日々邁進してまいりました。桜井茶臼山古墳・新沢千塚一二六号墳・高松塚古墳・飛鳥宮跡・太安萬侶墓・藤ノ木古墳・黒塚古墳等の学術調査を実施するとともに、社会インフラ整備や大規模開発等に先立つ埋蔵文化財調査を遂行することで、県勢発展に努めてきました。

そして現在、榎考研は調査研究成果の公開活用を主軸におき、奈良県の推進する文化資源活用に取り組んでいます。奈良は「日本国発祥の地」であり、古代日本の政治文化の中心地でした。県内には大規模な古墳群や集落跡、飛鳥・藤原・平城の宮都の跡が残り、飛鳥・奈良時代以来の多くの古社寺がいまも法灯を保っています。榎考研は、

それらの遺跡の調査研究を積極的に行い、講演会や附属博物館の展示等を通して、日本の歴史の魅力を国内外に発信しています。また海外においては、シリア・中国・韓国等の調査研究に参画し、海外との研究交流をさらに活発にするとともに、戦火に曝されたシリ

アの文化財修復事業の支援にあたっています。

これまでの八十年の長きにわたり、榎考研をご支援いただきました奈良県民と各界の方々に對して、深く感謝申し上げます。榎考研では、八十周年を迎えるにあたり、科学的調査研究のさらなる向上を追求し、出版・講演会等の記念事業の実施を通じて、日本の歴史を振り返る機会を県民・国民の皆様にご提供する拠点となる決意を改めてお伝えします。

皆様方には、奈良の歴史文化の豊かさを末永く護り楽しむ榎考研の活動に、今後ともご支援いただきますように、重ねてお願い申し上げます。



昭和 55 年竣工の博物館棟



# 檀考研創立期の研究所棟と研究員



# 榎考研を生み育てた歴代の所長（敬称略）

## 初代所長

末永 雅雄

昭和十三年九月～五五年十月



榎考研創立前の唐古遺跡の調査  
(昭和12年)

## 第二代所長 有光 教一

昭和五五年十一月～五九年三月



明日香村塚本古墳の視察風景  
左は網干善教（昭和62年）

末永雅雄は、大規模平面発掘の実施、鉄製武器の復原研究、遺跡研究への航空機の利用等、現代日本考古学の調査研究手法を確立した考古学者である。

有職故実を関係の助から、近代考古学を浜田耕作から、史学を西田直二郎から学んだ。奈良県史蹟名勝天然記念物調査会の嘱託となって、数多くの発掘を実施したが、そのひとつである榎原遺跡の調査を契機として、榎原考古学研究所を創設した。

調査研究を推進する上で、いち早く学際的研究体制の必要性を考え、榎考

研で組織化を実践した。「常歩無限」を座右の銘として、生涯にわたって多くの発掘を領導し、研究を推進して、上田宏範・網干善教・伊達宗泰・森浩一・石野博信等、多数の研究者を育てた。

『日本上代の甲冑』（昭和十九年）、『古墳の航空大観』（昭和五十年）のほか、多数の論文・著作がある。

昭和十一年、当時最年少で帝国学士院賞を受賞。その後、朝日賞受賞（昭和四八年）、文化功労賞（昭和五五年）、そして考古学者として初めて文化勲章（昭和六三年）を受賞した。

有光教一は、朝鮮考古学の泰斗である。榎考研では昭和四八年から副所長を務め、昭和五五年に末永雅雄の後を次いで所長に就任した。

昭和六年に朝鮮総督府古蹟調査事務を担当して以後、文化財の保護と展示公開に当たり、悪化した戦況下では収蔵品を戦火から護った。戦後ただ一人残り、韓国側担当の金載元を補佐して、国立博物館の開館準備を行った。昭和二年六月に帰国後は、占領軍九州地区軍政司令部顧問となり、九州の文化財保護に携わった。こうした半生を回

顧して、私の朝鮮考古学はすべてが現代史であつたと述懐している。

昭和二五年に京都大学講師、昭和三二～四六年の間、教授を務めた。

所長在任中には、曽我遺跡、牧野古墳、額安寺忍性墓等の重要発掘を指導した。また博物館では、発掘速報展示の全国普及の牽引役となった『大和を掘る』展を事業化し、駐日大韓民国大使館の協賛による「韓国古代文化拓本展」等の特別展の開催を実現した。

平成十二年、京都新聞大賞文化学術賞を受賞。



## 第三代所長 岸 俊男

昭和五九年四月～六二年一月



飛鳥宮木簡の報道発表（昭和60年）

岸俊男は、古代の籍帳・宮都・文物、そして新たな歴史資料となった木簡について、鋭利で重厚な考察をおこない、日本古代史を史実に基づく歴史学に転化させた先導者であった。

京都に生まれ、音羽の滝の水を産湯としたが、父、岸熊吉が奈良県社寺兵事課技師となったために奈良に移った。都城跡と奈良以来の寺院を身近に育ったことから、文献に加えて、遺跡踏査による歴史の追求を重視した。

昭和三五年、横田健一・直木孝次郎とともに所員となる。藤原宮跡から出

土した木簡を和田萃と丁寧洗浄し、分類して釈文をつくり、それに基づいて歴史を語る姿勢は、木簡学会設立につながるとともに、初代会長として木簡研究の推進に力を尽くした。

昭和六十年、飛鳥宮外郭出土の「大津皇」子木簡を報道発表する姿は、日本古代史を探索してきた岸の学問の歴史を象徴するものになった。

大峰山寺本堂・藤ノ木古墳等の重要調査を指導していたなか、病魔に倒れ、享年六七歳での死去は、研究所のみならず学界の大きな損失となった。

## 第四代所長 樋口 隆康

昭和六四年一月～平成二十年三月



ハレド・アサド パルミラ博物館長と  
（平成12年）

樋口隆康は、中国・日本における古銅器研究の第一人者であった。京都大学中央アジア学術調査隊でバーミヤン遺跡等の調査をおこない、奈良県事業としてシリア・パルミラ遺跡調査を主導した。国内では、和歌山県大谷古墳、京都府椿井大塚山古墳等の発掘と、銅鏡研究において『古鏡』・『三角縁神獣鏡綜鑑』を纏め、研究を進展させた。

所長として着任すると、研究所の宿願であった研究所新棟の建設、博物館展示のリニューアルを次々と実現した。また発掘においては、中山大塚古墳・下池山古墳・島の山古墳・黒塚古墳等の調査を指導した。

日頃は、研究所の海外からの研修生に、暖かい心配りを尽くされていた。背景には、昭和三年に戦後最初の日本考古学訪中視察団員として中国をめぐる、周恩来・郭沫若等から歓待を受けたことがあったのかもしれない。

昭和六十年和歌山市文化賞、平成元年NHK放送文化賞、平成四年京都府文化特別功労賞、平成九年福岡アジア文化賞（学術研究賞）、平成十三年朝日賞受賞。



## 発掘・事業等略年表 1

1938 年 榎原遺跡（勤労奉仕隊の準備体操風景）

- 1938 年 榎原遺跡，研究所発足
- 1939 年 布留遺跡
- 1942 年 丹治遺跡，新沢一町遺跡，太田遺跡
- 1943 年 寺口 1・2 号墳，悪田古墳，小平坊塚古墳
- 1944 年 海軍航空基地内遺跡，谷脇古墳
- 1945 年 加守火葬墓，宇和奈辺古墳群
- 1946 年 茶山古墳，倉橋古墳群
- 1947 年 春日山古墳，太鼓山古墳
- 1948 年 櫛山古墳，近内古墳群，多聞城跡
- 1949 年 桜井茶臼山古墳，二塚古墳
- 1950 年 宮山古墳，狐ヶ尾古墳群，桜ヶ丘遺跡
- 1951 年 三陵墓西古墳，県総合文化調査（都介野）
- 1952 年 星塚古墳，県総合文化調査（竜門）
- 1953 年 猫塚古墳，榛山古墳，鴨都波遺跡，県総合文化調査（吉野川流域）
- 1954 年 平城宮跡，歌姫横穴，斑鳩大塚古墳，第 1 回研究発表会，稲荷西 2～4 号古墳
- 1955 年 石舞台古墳，珠城山古墳，穴虫火葬墓，森本窪之庄遺跡
- 1956 年 塩塚古墳，塚山古墳，丸山古墳，二上山文化総合調査
- 1957 年 豊浦寺跡，大川遺跡
- 1958 年 五條猫塚古墳，二塚古墳，平林古墳，珠城山 2・3 号墳
- 1959 年 狐塚古墳，石上大塚山古墳，メスリ山古墳，上殿古墳
- 1960 年 飛鳥京跡，日高山瓦窯跡，天神山古墳
- 1961 年 黒塚古墳，早田銅鐸出土地
- 1962 年 新沢千塚古墳群，小泉大塚古墳
- 1963 年 勢野茶臼山古墳，新沢千塚第 126 号墳，飛鳥宮跡内郭大井戸
- 1964 年 古市方墳，岡峯古墳
- 1965 年 マエ塚古墳，御坊山 3 号墳，安倍寺跡，額田部狐塚古墳
- 1966 年 石見遺跡，藤原宮跡，於古墳
- 1967 年 唐古・鍵遺跡 2 次，研究所棟新築
- 1968 年 丹切古墳群，割塚古墳
- 1969 年 烏土塚古墳，県下古墳基礎調査
- 1970 年 池ノ内古墳群，新沢一町遺跡，西隆寺跡，中曾司遺跡，秋篠寺，馬見古墳群
- 1971 年 纏向遺跡，地光寺跡，荒坂瓦窯跡，高塚遺跡，石上豊田古墳群，高松塚古墳
- 1972 年 島庄遺跡，兵家古墳群，石光山古墳群，富雄丸山古墳，平城京東四坊大路，平野塚穴山古墳
- 1973 年 火野谷山古墳群，ウワナベ古墳外堤，大王山遺跡，紀寺跡，大安寺旧境内



1949 年 桜井茶臼山古墳の石室（2008 年再撮影）



1963 年 新沢千塚第 126 号墳



1963 年 飛鳥宮跡 内郭大井戸



榎考研発掘

八十年の軌跡  
（昭和と平成）





1972 年 高松塚古墳



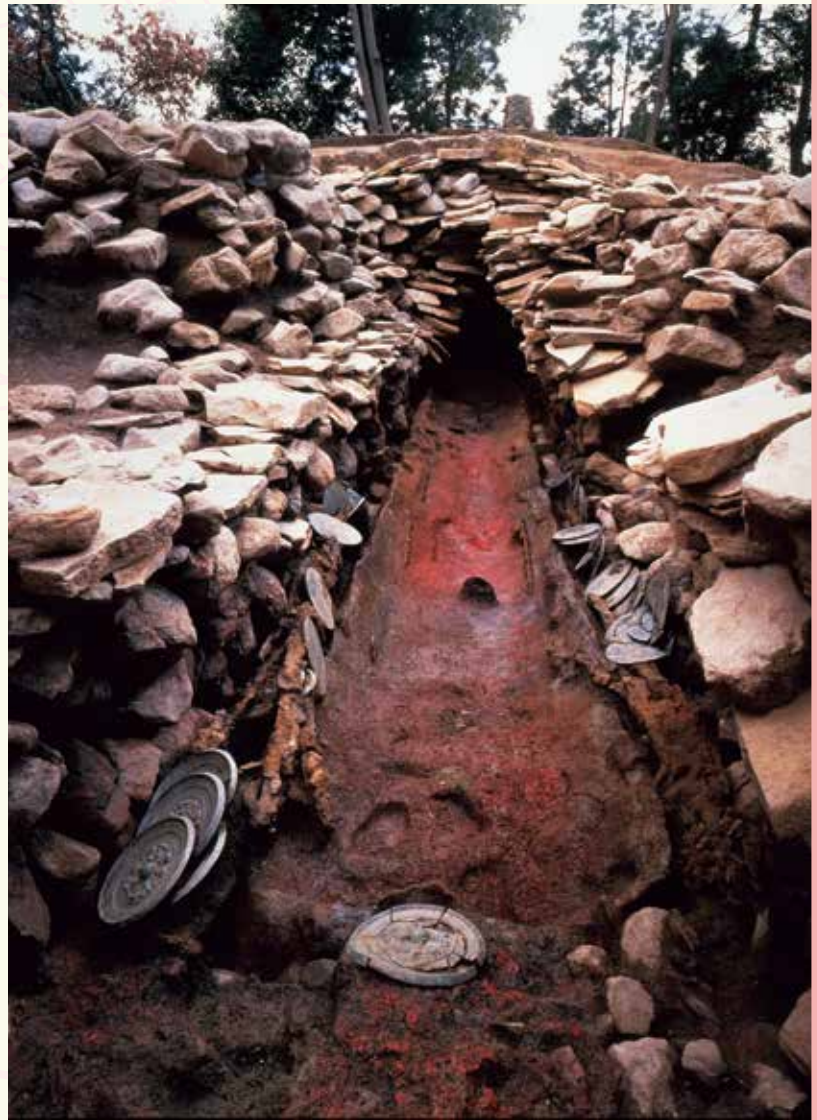
1988 年 藤ノ木古墳石棺



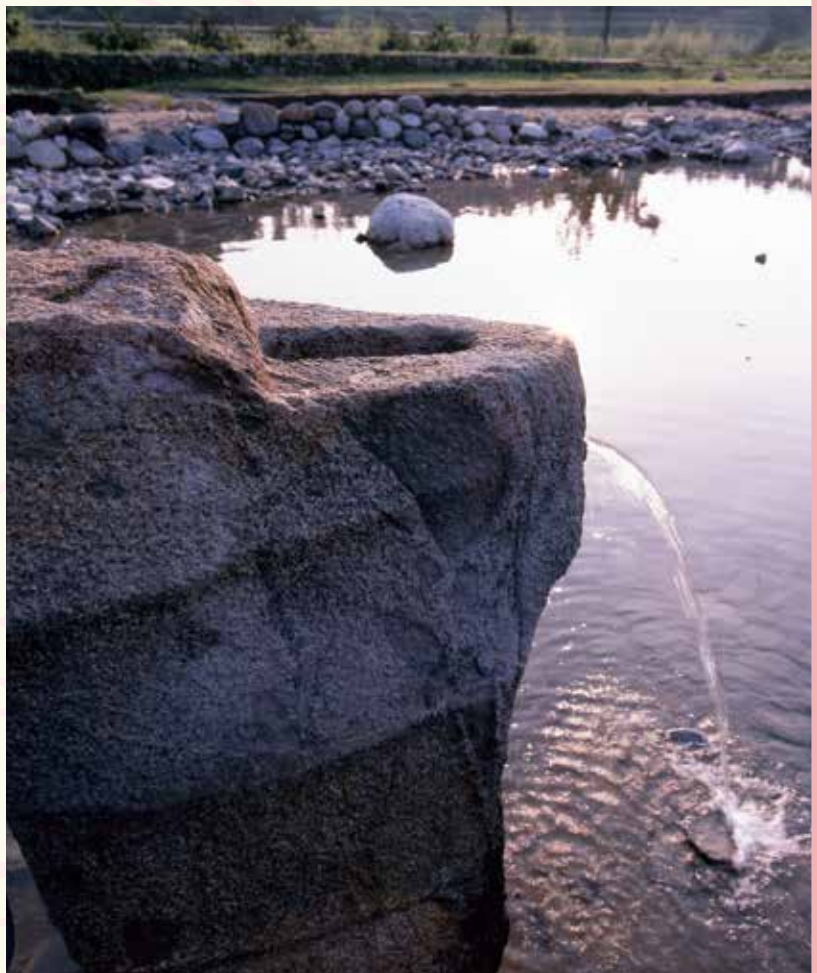
- 1974 年 黒石東古墳, 平隆寺跡, 立野城跡, 三里古墳, 佐味田坊塚古墳, 大福遺跡, つじの山古墳, 榎原考古研究所条例
- 1975 年 西橘遺跡, 清水谷古墳群, 興福寺旧境内, 額安寺, ナガレ山古墳, 佐味田狐塚古墳, 纏向石塚古墳, 宮滝遺跡
- 1976 年 元興寺旧境内, 東大寺旧境内, 稗田・若槻遺跡, 仏塚古墳, 竹内遺跡, 法起寺境内
- 1977 年 六条山遺跡, 朝妻廃寺, 中宮寺, 唐古鍵遺跡 3 次, 多遺跡
- 1978 年 矢部遺跡, マルコ山古墳, 市尾墓山古墳, 和爾遺跡, 曲川遺跡, 牧代瓦窯跡, 岩屋瓦窯跡, 法隆寺旧境内, 平等坊岩室遺跡, 橘寺, 岩屋山古墳
- 1979 年 太安萬侶墓, 松林苑, 院上遺跡, 箸尾遺跡, 寺口和田古墳群, 嶋宮推定地、中国へ留学生を派遣
- 1980 年 忌部山遺跡, 南阿田大塚山古墳, ゼニヤクボ遺跡, 見田大沢古墳群, 新山古墳群 附属博物館新館竣工
- 1981 年 岩室池古墳, 穴虫石切場跡, 十六面遺跡, 曾我遺跡, 市尾今田古墳群, 中尾山古墳, 初香山遺跡, 広瀬遺跡, 坪井遺跡
- 1982 年 文祿麻呂墓, 巨勢山古墳群, 笹尾古墳, 額安寺忍性墓, 檜前上山遺跡
- 1983 年 タニグチ 1 号墳, 塚本古墳, 鳥谷口古墳, 大峰山寺, 今井 1 号墳, 椿井西宮遺跡, 野山古墳群, 牧野古墳, 首子遺跡
- 1984 年 舞ノ庄遺跡, 美努岡萬墓, 束明神古墳, 脇本遺跡, 谷遺跡, 内山永久寺跡, 玉手遺跡, 北原古墳, 龍王山古墳群
- 1985 年 高安城跡, 藤ノ木古墳, 後出古墳群, 佐味田宝塚古墳, 広瀬地蔵山墓地跡, 尾山代遺跡, 橘寺, 大岩古墳群
- 1986 年 春日野浮雲遺跡, 平田キタガワ遺跡, 寺口忍海古墳群, 清水風遺跡, 竹林寺忍性墓, 滝寺磨崖仏, 春日大社境内, 乙女山古墳, 斑鳩宮推定地, 与楽ナシタニ古墳群
- 1987 年 巨勢寺, 郡山城跡, 笛吹古墳群, 四条遺跡, 長林寺跡, 東大寺大仏殿西廻廊
- 1988 年 藤ノ木古墳石棺調査, 桐山和田遺跡, 葛本弁天塚古墳, 慈光院裏山遺跡, 寺口千塚古墳群, 三陵墓東古墳
- 1989 年 北野ウチカタビロ遺跡, 鴨神遺跡, 原遺跡, 新沢千塚 221 号墳, ウズベキスタン・ダルベルジンテパ



- 1990年 東大寺旧境内（铸造遺構）、池上古墳、中山大塚古墳、シリア・パルミラ遺跡（以後継続）
- 1991年 阪原門前遺跡、和爾小倉谷古墳群、粟原カタソバ遺跡、石光寺跡、石榴垣内遺跡、コンピラ山古墳、平林古墳
- 1992年 白川火葬墓群、阪原阪戸遺跡、ヒシヤゲ古墳、南郷柳原遺跡、宮之平遺跡、横大路、住川墳墓群、加守寺跡、橿考研新棟オープン
- 1993年 中山大塚古墳（石室調査）、乙木・佐保庄遺跡、南郷下茶屋遺跡、豊浦寺金堂跡、太田遺跡、三吉2号墳、南郷井戸遺跡、高家古墳群
- 1994年 大和8・9・10古墳、南郷大東遺跡、首子遺跡、箸墓古墳、只塚廃寺、芝遺跡
- 1995年 水泥古墳、中宮寺跡9次、下池山古墳、伴堂東遺跡、大柳生遺跡群、南郷安田遺跡、金峯山寺本地堂
- 1996年 小泉大塚古墳、島の山古墳、細川谷古墳群、菅田遺跡、辻ノ垣内窯跡、上津大片刈遺跡、居伝瓜山瓦窯
- 1997年 越部古墳、願興寺跡、勝山古墳、黒塚古墳、本郷西荻窪・ソマトニ遺跡、平隆寺跡、橿考博リニューアルオープン
- 1998年 南郷佐田遺跡、下茶屋カマ田遺跡、大柳生ツクダ遺跡、東大寺戒壇院千手堂、太田古墳群、長谷寺、峯の阪遺跡、飛鳥京跡苑池
- 1999年 本郷大田下遺跡、讃岐神社古墳、水木古墳、小泉堂遺跡、三ツ塚古墳群、ホケノ山古墳
- 2000年 白石遺跡、箸中イヅカ古墳、兵家清水・菰谷古墳群
- 2001年 野々熊古墳、大川遺跡7次、下田味原遺跡、達磨寺3号墳、棚機神社東古墳、ヒシヤゲ古墳、水晶塚古墳、古宮谷古墳群
- 2002年 ヒエ塚古墳、北窪遺跡、ホラント遺跡、達磨寺3号墳、馬見二ノ谷遺跡、キトラ古墳、八条北遺跡
- 2003年 石名塚古墳、南六條北ミノ遺跡、ノムギ古墳、薩摩遺跡、空海寺
- 2004年 多武峰遺跡群、居伝瓜山瓦窯、ドンド垣内古墳群、二光寺廃寺、唐招提寺金堂、極楽寺ヒビキ遺跡、矢田原遺跡
- 2005年 仁興城跡、大峰山寺境内、北今市古墳群、横田アンバ遺跡、巢山古墳・寺戸遺跡



1998年 飛鳥京跡苑池



# 橿考研発掘 八十年の軌跡 （平成）





2014 年～ 小山田古墳



発掘・事業等略年表 4

- 2006 年 日笠花刈・フシンダ遺跡, 法貴寺斎宮前遺跡, 室宮山古墳前方部, 薩摩 11 号墳, 一本松古墳, 東中谷遺跡, 川原下ノ茶屋遺跡
- 2007 年 脇本遺跡 (鋳造関連遺構), 萩之本遺跡, 川西根成柿遺跡, 倉塚古墳, 勝山古墳, 高松塚古墳, 松山城跡, 龍田陣屋跡, 観音寺本馬遺跡
- 2008 年 薩摩遺跡池遺構, 笹鉾山 2 号墳, 巢山古墳北円筒棺, 勝山古墳, 平城京田村第跡, 脇本遺跡 14 次
- 2009 年 片岡王寺跡, 桜井茶臼山古墳 (石室再調査), 秋津遺跡 (長方形区画施設群), 飛鳥宮跡北外郭, 中西遺跡 (弥生水田)
- 2010 年 中西遺跡弥生里山, 飛鳥京跡苑池北池, 飛鳥宮跡内郭・外郭
- 2011 年 脇本遺跡 (大型建物), 中西遺跡 (弥生水田), 飛鳥宮跡北限, 八条北遺跡 (下ツ道)
- 2012 年 中ツ道, 脇本遺跡 (池状遺構), 藤原京右京十一條二坊大型建物, 飛鳥京跡苑池南池, 東大寺法華堂, 大塩城
- 2013 年 空海寺, 興福寺観禅院, 中ツ道, 飛鳥京跡苑池中島・建物群, 石舞台古墳北隣接地, 秋津遺跡 (古墳集落)
- 2014 年 興福寺松林院跡, 唐招提寺, 薬師寺東塔, 八条北遺跡 (堅果ピット), 藤原京右京十一條二坊大型建物, 飛鳥京跡苑池建物群, 小山田古墳, 新村遺跡 (弥生水田), 秋津遺跡 (弥生水田)
- 2015 年 東大寺東塔院跡, 東大寺西・南面大垣, 松林苑築地, 平城京左京三条二坊十四坪, 平城京右京三条一坊一・二・七・八坪, 小山田古墳西北部, 中西遺跡 (弥生水田)
- 2016 年 平城京左京三条二坊十四坪 (弥生水田), 中西遺跡弥生水田, 毛原廃寺, 春日大社境内, 新堂遺跡, 東大寺東塔院, 多武峰町石, 伊勢本街道, 小山田古墳埋葬施設位置確認
- 2017 年 中西遺跡 (弥生水田), 美濃庄遺跡, 新堂遺跡, 興福寺旧境内登大路瓦窯, 庄司山古墳周辺, 郡山城中堀, 藤原京跡・四條 1 号墳, 小山田古墳, 東大寺東塔院廻廊, 伊勢本街道, 名勝奈良公園吉城園周辺, 唐招提寺御影堂



発掘調査



## 明日への檀考研活動 - 考古学で人と地域を結ぶ -

檀原考古学研究所では、埋蔵文化財の調査・研究の最新成果を皆様と共有し、考古学をたのしんでいただくためのさまざまなイベントや活動を行っています。これからの檀考研活動にご期待下さい。

移動博物館



宇陀文化財講座



遺跡見学会



考古学写真甲子園





発掘調査現地説明会



博物館特別展



こども考古学講座



公開講演会



シリア文化財修復支援





# 考古学研究交流 東アジア、そしてユーラシアへ

## 西北大学文化遺産学院より



西北大学の歴史は1902年の陝西大学堂と京師大学堂の速成科仕学館の創立に始まります。1912年に西北大学の名称となりました。2006年に設立された文化遺産学院は、1988年設立の文博学院を前身とし、これは1937年設立の歴史学系が起源となります。70数年を経て、学院には現在、考古学（文化遺産管理学を含む）と文化財保存技術の2つの専門課程が設けられています。歴史学では1級学科博士・修士学位の授与権限と博士課程後期の科学研究拠点があり、考古学と博物館学、文化財保存学

では、2つの博士・修士の学位授与の権限があり、文化財と博物館学では、1つの専門学位授与の権限があります。

学院には現在、「国家級実験教育規範センター」として文化遺産保護技術実験教育センターがあり、考古学と文化財保存科学は「陝西省ブランド専科」、「陝西省特色専科」、さらに考古学は「国家級特色専科」、「省級人材育成方法創成新区」、「省級教育學團隊」に指定されています。また、第2部門に国家級最高課程、第3部門に陝西省最高課程、第4部門に西北大学最高課程があります。省級名誉教師を1名有し、国家級・省級の優秀な教育成果賞を多くの項目で得ています。

学院は良好な科学研究機構を持つており、国家級や省級の各種拠点到指定されています。文化遺産研究と保存技術重要実験室（教育方面重点实验室）、磚石質文化財保存実験室（国家文物局重要科学研究基地）、陝西省文物局西北大学「文化遺産保護企画センター」、文化遺産保護と考古学研究センター（省級



孫麗娟 氏

中国・西北大学文化遺産学院  
文化財保存技術専門教師

### プロフィール

- 中華人民共和国・遼寧省出身
- 西北大学文化遺産学院で、文化財保存教育と研究に従事。専門は毛皮文化財保存研究
- 2017年8月～2018年1月、檀原考古学研究所にて研修

重要科学研究基地）、考古学、文化財保存学（省級重要専科）、などがあります。マルチメディアの教室、文化財保存と考古学実験室、コンピュータの教室などの現代的な教育実験施設を持ち、附属博物館では2万件以上の各種文化財が収蔵されています。

文化財保存技術の専攻としては、1989年創立と中国では最も早く、文化財保存専門の人材を最も多く育成しています。現在主要な教育と科学研究の方針は、遺跡保護や壁画の保存技術、磚石質製品・金属製品・陶磁器の文化財保存および脆弱な文化財の保存において、要となる技術の研究開発などです。

私は、文化遺産学院の文化財保存技術専門教師で、考古学と博物館学の博士・修士専攻の指導教官を務めています。文化財保存教育と科学研究の仕事

に13年間従事してきました。主な研究分野は、毛皮に関する文化財保存の研究、紡織品の同定と保存、紙質の文書の保護、そして文化財保存材料の研究などです。近年では代表者として『毛皮文化財の病害の評価と体系的研究』（陝西省社会科学基金）、『西北地区の毛皮文化財保存の基礎的研究』（陝西省協同創新革新センタープロジェクト）、『硬化皮革文化財の劣化構造の探究』（陝西省教育庁基地プロジェクト）、『陝西淳化棗樹溝遺跡の発掘報告』（国家社会科学基金プロジェクト）など10数項目の研究課題に参画しています。

主な論文として「楊官寨遺跡考古発掘現場の地表面の風化を防ぐ材料の研究」、「考古発掘現場の地下水蒸発による劣化影響の研究」などの10数編を発表しています。



# 考古学を通じてみた中国と日本：東西を問わない



寧夏回族自治区 須弥山石窟においてデジタル測量を行う筆者

私は中学生の頃から、地質学分野の仕事をしていた父の影響で、考古学に対して非常に興味を持ちました。吉林大学の考古学科で学ぶなかで、私は中国の戦国秦漢時代の考古学を専攻しました。卒業後、寧夏文物考古研究所の所員となって、考古学の調査・研究に従事しています。

2012年から2016年には、寧夏文物考古研究所と浙江大学文化遺産

研究院と共同で、5世紀に造営が開始された寧夏須弥山石窟の三次元レーザー測量を用いた考古的調査を実施しました。これは私の現在の中心的な仕事となっています。

須弥山石窟が造営された時期は中国北方の北魏鮮卑人政權の統治下であり、北魏王朝は、匈奴・ソグド人・羌族・鮮卑族と漢族など異なる民族が建てた小国を併合し、そして中央アジア

から北方草原の多くの民族の人々を取り入れ、豊かに東西文化が融合した特色のある帝国となりました。

この時期、仏教も次第に繁栄していきました。我々が調査した須弥山石窟は、151ヶ所の石窟が保存されており、石窟と仏像には、北魏・西魏・北周・隋唐から元までの異なる時期の類型があります。

著名な石窟は、唐代の立像と座像の巨大な仏像と、北周代の第45・46・51窟中の数百体の仏像で、これらの窟と造像は長い歴史の中で人々によって絶えず維持管理と修理が行われ、そし

て中国仏教・チベット仏教と共存してきたという事実があります。はるかに長い年月を経てきたそれぞれの窟・造像で構成されており、類型が豊富で多様な規模をもち、広大な面積の石窟寺院遺跡です。

2017年6月から、私は日本の奈良県立橿原考古学研究所で研修を行っております。この間、日本考古学の理論と方法において中国との異同を理解し、多くの発掘現場と仏教寺院などを見学しました。

日本の文化財保護の仕事に対しては、多くの貴重な人類の歴史資料をほぼ完全に保存するとともにその内容を地上表示していることに賛嘆しました。また日本列島の人類活動において縄文時代は独特な文化であると感じ、弥生時代からは大規模な大陸的な遺物が出現し、縄文時代の文化要素が次第に弱くなり消えていく現象に非常に興味をもちました。

日本の仏教寺院は飛鳥時代に出現していますが、須弥山石窟が造営を開始する時期に比較的近く、日本の仏教の繁栄期である奈良時代の仏像は全体の風格が唐代の仏像に似ていますが、細い表現での差異を感じました。これらの現象は人類の大規模な移動と中日間の文化が密接に交流したことを示しているのではないかと思います。

実際に、我々が今日言うところの考古学と歴史は、中日交流の歴史を刻んでおり、まさに人類の活動の印です。人類は自ら新しいものを作るとすぐに、絶え間ない移動と交流を始めますが、中日間の交流、それぞれの今日の文化や風習は、東方西方のどちらから来るかに関わらず、すべて人類の活動規律の体现であり、我々の今日の豊富な物質と精神世界の基礎を成していると思います。



## 王宇氏

中国・寧夏文物考古研究所助理研究員

### プロフィール

- 中華人民共和国・内蒙古自治区出身
- 寧夏文物考古研究所で、須弥山石窟の調査などに従事。専門は戦国秦漢考古学
- 2017年6月～2018年4月、橿原考古学研究所にて研修



玉置山  
↓

地藏岳

(槍ヶ岳)  
↓

涅槃岳  
↓

笠捨山  
↓

行仙岳  
↓

転法輪岳  
↓

# 大峯奥駈道（最終回） 太古の辻～玉置山

## 1. 地藏岳南からの遠景（北から）

### 太古の辻から南奥駈道へ

太古の辻から玉置神社までは約30km。新宮山彦ぐるーぷの「千日刈峰行」で復興した道です。1500m～1100m級の緩やかな峰々を次々に越えていきます。鎖場は少なく、阿須迦利岳の北と、槍ヶ岳周辺に限られます。太古の辻の南には、蘇莫嶽（仙人舞台石・1521m）、石楠花岳（1472m）、天狗岳（1537m）、奥守岳（1485m）が続きます。そこから少し下ると嫁越峠（約1420m）。全路が女人禁制の時代にも、女性が奥駈道を越えることのできる峠でした。峠から少し上ると、天狗の稽古場とよばれる平坦地があります。

地藏岳（子守岳・1464m）を越え、滝川辻、乾光門から涅槃岳（1376m）に登り、証誠無漏岳（1301m）から鎖場を通り過ぎ、阿須迦利岳（1251m）を下ると持経宿です。奥駈葉衣会が建てた山小屋があります。

再び尾根に登り、「森の巨人たち百選」に登録された持経千年檜を過ぎて、約1.5kmで平治宿です。西行は同宿で「梢なる 月もあわれを思うべし 光に具して 露のこぼるる」（山家集）と詠んでいます。周囲には平場が残り、過去には北宋銭が出土しています。

転法輪岳（1281m）、倶利伽羅岳（1252m）を越えて長い坂を下り、再び上って怒田宿跡を越えると、大きな電波塔がある行仙岳（1227m）です。山頂から下った笠捨越には、行者堂と行仙山小屋があります。



4. 行仙岳南のヤマツツジ

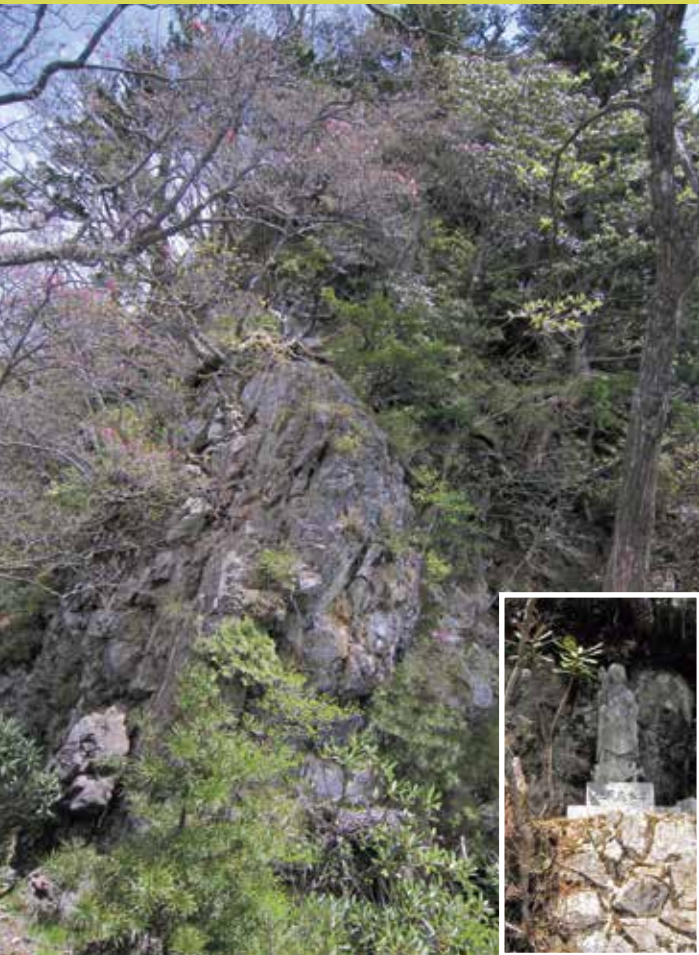


3. 修験者



2. 嫁越峠付近





5. 桜の巨樹 大峰八大金剛童子（上右）

6. 槍ヶ岳のアカヤシロ（上左）

7. 槍ヶ岳西端の岩壁と地藏尊（左）

約80°の岩壁には、2本の鎖が用意されている。太いのは人間用、細いのはザック用。荷物の重さで、足場のない断崖方向へ振られないようにとの心づくし。

## 行仙宿から玉置神社へ

笠捨越から道は南西へ進みます。ピークを越え、八大金剛童子の大桜を過ぎ、さらに上った先が笠捨山（1353m）です。山頂からは、これまでに越えてきた奥駈道が一望できます。

笠捨山から道は西へと進みます。下った葛川辻から、逆峯最後の難所である地藏岳（槍ヶ岳・1250m）へと取りつきます。槍ヶ岳は南北面ともに断崖であり、鎖を手にして登り、杉の根を渡って山頂に至ります。山頂のすぐ下に地藏尊が祀られています。約2m幅の稜線を横渡りして、西端の急傾斜の岩壁を鎖で下ります。四阿之宿から南西へと道は進み、拝み返しから槍ヶ岳跡をすぎ、香精山（1122m）からは長い下り坂となります。下り坂が終わるころ、大きな露岩である貝吹金剛を通ります。修験者の法螺貝が聞こえてきそうです。

細い尾根線を上り下りして、古屋辻、花折塚、かつえ坂、宝冠の森を過ぎ、玉置山（1077m）に至ります。山頂から杉の太木のなかを南に下り、玉石社の白石を過ぎると、玉置神社の絵馬堂に至ります。玉置神社は、熊野奥之院として京都の聖護院の支配下にありました。高牟婁院を中心に、七坊十五院の塔頭があったといえます。現在の社務所は、高牟婁院の主殿及び庫裏であり、重要文化財です。社務所内部は杉の一枚板の板戸・板壁60枚余で仕切られ、幕末の狩野派による花鳥画が描かれています。

玉置神社から熊野大社（大斎原）までは、20km弱の一日コース。さらにいくつかの峯を越えた下った先です。（大峯奥駈道シリーズ了）



9. 玉置神社本殿と杉の巨樹

8. 玉置神社 玉石社



# 催し案内

## ● 橿原考古学研究所附属博物館

### 特別陳列 「万葉集の考古学」

開催中

- ◇ 会期 平成30年2月3日(土)～3月21日(水)
- ◇ 内容 考古資料にみられる万葉集の世界をご紹介します。
- ◇ 講演会 3月18日午後1時開演、当研究所講堂

### 「歴史考古学からみた万葉集」

講師 鶴見 泰寿(当附属博物館)

## 同時開催 特別陳列 「博物館の歩み」

開催中

- ◇ 会期 平成30年2月3日(土)～3月21日(水)
- ◇ 内容 橿考博の原点「大和国史館」から、現在に至る博物館と友の会の活動の記録。終戦の日の博物館の様子を記した日誌など、様々な資料を展示。
- ◇ 講演会 特別陳列「万葉集の考古学」講演会と同時開催

### 「博物館と友史会の歩み」

講師 坂 靖(当附属博物館)

## ● 橿原考古学研究所附属博物館

### 橿考研創立八十周年記念春季特別展

## 「古代の輝き」

### 「日本考古学と橿考研八十年の軌跡1」

- ◇ 会期 平成30年4月21日(土)～6月17日(日)
  - ◇ 内容 橿考研は昭和13年に創立され、本年度80周年を迎えます。その記念に、昭和初期から近年までの調査成果のなかから、重要資料を集めて展示します。春季展では、旧石器時代から古墳時代中期までの重要文化財・県指定文化財等が一堂に会します。
  - ◇ 講座 5月6日(日)・20日(日)・6月10日(日) 予定
- 会場…当研究所講堂  
時間…各日とも午後1時～4時半



『橿考研通信』 Vol.4

平成30年2月15日

編集・発行：奈良県立橿原考古学研究所  
奈良県橿原市畝傍町一番地  
<http://www.kashikoken.jp>

印刷：株式会社 明新社



研究所 QR



博物館 QR



読者の皆様へ：本紙では、Google map に関係づけた地図 QR コードを掲載しています。個人の責任でご利用ください。